

<第6学年の実践例>

1 活動計画「総合的な学習の時間」

(1) ねらい

自分たちが地域のなかで、何ができるのかを考え、実践することで、協力し合う心を育て、人との関わり方を高めていく。

(2) 活動の流れ

総合的な学習の時間

<ともに生きよう、住みよい町に>

- ・「住みよい町」というキーワードから、各自が町のために実践できる内容を考えよう
- ・身近なお年寄りと交流したり、町のために実践したりしたことをまとめよう。
- ・地区の推進委員さんから、地域の高齢化の現状を聞こう。
- ・交流センターでお年寄りとふれ合おう。
- ・訪問をもとに、自分たちが地域でできることを改めて考えて実践しよう。

道徳

- ・思いやり(2-2)
- ・親切(2-2)
- ・人間の平等(4-2)

ふれあい

特別活動等

- ・1年生を迎える会
- ・兄弟学級遊び
- ・海岸清掃・砂の造形
- ・縦割り清掃
- ・海っ子まつり
- ・伝えよう！ありがとうの気持ち(家庭科)

思いやりの心

地域の一員としてできること

(3) 活動のポイント

① この活動のよさは

ア個人レベルで地域のために活動したり，全体で再び活動したりして，多くの活動をすることで，地域のために何をするのがよいのかを知ることができる。

イ交流センターを介して，地域の方々とふれあうことにより，人々のあたたかさを感じ，地域への感謝の気持ちを高めることができる。

② 配慮することは

ア個人で地域のために行う活動は，安全にできるよう，事前に活動場所を把握し，安全面に配慮するよう指導を行う。

イ地域のお年寄りの方とふれあうときは，河原子交流センターの職員の方と日程や内容など，綿密に打ち合わせをする。

ウ地域への奉仕活動を行う際は，安全面に配慮し，活動場所の選定を図る。

(4) 「心に響く」ための工夫

- ・「地域のための活動中に感じたこと」「活動して生じた問題点」を、全員に持ってもらうために、まず個人レベルで地域に対する活動をする場を設定する。
- ・個人で活動したことを全体で共有するために、話合いの場を設けた。そうすることで、より今後の全体での活動に対する意欲が高められる。
- ・交流センターの方にお骨折りをいただき、多くの年長者の方と交流を持つことができるようにする。
- ・個人が体験したことを生かして、全体でも活動し経験することによって、多様な活動があることにも目を向けさせ、地域により関わっていけるようにする。

(5) 話し合い活動の例 S：児童 T：教師

話し合い活動・内容	教師の働きかけ
1 グループをつくり今まで活動して感じたことや、問題と想ったことを話合う。 ○草引きグループ S 1 コンクリートの間から生えている草は抜きにくかった。 S 2 鎌を使うと簡単だったよ。 S 3 たくさん草が生えているところは、一人ではたいへんだ。 ○ごみひろいグループ S 4 大きなごみも捨ててあった。	・ 司会をする人や発表する人などの役割分担をすることを話し、円滑に話合いが進むよう促す。 ・ 話合いでは「活動した内容」「活動したことで生じた思い」「そこで生じた問題点」の3点に注目して進めるように話し、班ごと

S 5 食べ物の包装紙のごみが多かった。

S 6 ポイ捨てが多い。

S 7 拾いきれなかった。

○落書き消しグループ

S 8 少しは消すことができたけど完全にはできなかった。

S 9 大人が書いているのかな。町が汚く感じてしまう。

○人に親切にするグループ

S 10 「ありがとう」がうれしかった。

S 11 声がかげづらい時があった。

○あいさつ・ふれあいグループ

S 12 元気にあいさつを返してくれる人が多かった。

S 13 あいさつを返してくれなかった人は、びっくりしたからかな。

2 グループごとにまとめた「感じたこと」や「問題点」を発表し、今後の自分たちの活動について話し合う。

S 14 「ごみひろい」と「らくがき消し」はポスターを貼ってみては。町のみんなによびかけてみたらどうだろう。

S 15 協力してくれる人を探してみるのがいいかもしれない。

S 16 「草引き」や「ごみひろい」は、みんなでやれば作業がはかどると思う。

S 17 これからは土曜日や日曜日を使って、みんなでやってみよう。

に視点がぶれないよう配慮する。

- ・一人では克服できない問題も、大勢で取組めばできる活動や皆に知ってもらえれば実現できる活動もあることを考えさせることで、今後の活動の意欲の高まりへとつなげさせたい。

2 心に響く活動の様子 ア話合い活動の様子



○児童の感想

- ・ もっといろんな人に親切にしたり，あいさつをしたりしたいと思った。
- ・ 地域のためにできることにも，やってみると，いろんな問題点があることが分かった。でも，話し合えば解決策があることも分かった。
- ・ 地域のためにできることが見つかり，それを実行することができてとてもうれしく思った。

イ交流センターに訪問した時の様子



○児童の感想

- ・ お年寄りの方の前で，合奏や合唱を発表したときに，とても喜んでくれたのが，とてもうれしかった。名刺を渡したときに，「どこに住んでるの」など話げできたのが，とてもよいきっかけができたと思う。
- ・ 名刺を渡すときに，お年寄りの方とたくさんお話をすることができた。自分は「ごみひろいをがんばっています」と言ったら，「がんばってね」と励ましてくれました。とてもうれしかったです。

3 児童の変容とまとめ

- 本単元を通して感じたことを，児童に記述式で回答してもらったところ，次のような感想が寄せられた。自分の町についてより関心が高まったことと，自分のテーマを決めて，実際に福祉に関する行動を起こすことの大切さを学ぶことができたと感じている。
- ・「人のために，もっと役立つことはないか」ということについて考えてみようと思った。自分のテーマである「ごみひろい」はやってみると，とてもよい気持ちになれた。
- ・みんなが笑顔になれるように，これからも役にたてることを考えて取組んでいこうと思っています。
- ・私は「人に親切にする」ことに取組んできました。この学習をする前は，お年寄りが重そうな荷物を持っていても，無視して通り過ぎていたけれど，この学習から，「人に親切にする」ことはとてもいいことだと気づいたし，それを実行する勇気をもらいました。
- ・自分の町がとても気になるようになった。ごみが捨ててあるのを見ると悲しくなります。